

メドハギ

Lespedeza cuneata

マメ科



メドハギ

名前の由来

メドは箆で、昔中国で古いに使われた箆竹（ゼイチク）という細長い棒の代用品として、この植物の茎の枝や葉をそぎ落として用いたことからついた名前という。漢字名：箆萩、著萩、目処萩

形態的特徴

高さは60～100cmで直立、または斜めに真っ直ぐ伸びる。葉は3枚の小葉からなり（三出複葉）、茎に多数の葉が密生する。小葉は少し厚みがあり楕円形で、裏面に圧毛がある。

花は淡紫色の蝶形で、葉の根元（葉腋）からでる柄に（総状に）数個集まってつく。

類似種：特になし。

生育環境・分布

日当たりのよい草地や河原、荒地などに生える。

十勝地方では、日当たりのよい草地や河原、荒地で見られる。

分布：国外分布は、朝鮮、中国、ヒマラヤ、アフガニスタン、マレーシア。オーストラリアには帰化している。

国内分布は、北海道から琉球まで日本全土。

北海道内分布は、十勝・網走・道央・道南。根室・釧路地域や道北での分布は不明。

生活史

開花時期：8～9月中旬。開花までの年数：不明。

寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■メドハギは草原や河原の礫地、荒地などでも普通に生育することができる。しばしば道路斜面の緑化に利用され、古くは茎が高級すだれの材料に用いられた。

■茎や葉に利尿作用があるといわれ、乾燥させて煎じて服用されたという。



メドハギ。楕円内は若芽

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期					■							
結実期						■						

参考文献

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「名前といわれ 野の草花図鑑4」杉村昇 偕成社 1990

「日本の野生植物 草本Ⅱ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「日本野生植物館」奥田重俊 小学館 1997

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ